



真心の行動 慈愛の奉仕 平和に挺身

1995—96年度国際ロータリーのテーマ

ハーバート G ブラウン
国際ロータリー会長

第2560地区
ガバナー——重 田 政 信
会 長——石 橋 育 於
会長エレクト——捧 賢 一
副 会 長——五十嵐 総 一
幹 事——松 谷 昊 吉
副 幹 事——五十嵐 昭 一
S A A——清 水 良 一
副 S A A——菊 池 涉

例 会 日——毎週水曜日 12:30 ~
例会場及び——三条市旭町2-5-10
事 務 局——三条信用金庫本店内
例 会 場——TEL 35-3311
事 務 局——TEL 35-3477
FAX 32-7095

本日出席会員数	81名中 49名
先々週出席率	98.70 %
前年同期出席率	

ヴィジター

三条南より 若林幸哉さん

田中康雄さん

三条北より 中條耕二さん

本間建雄美さん

先週のメイクアップ

11/16 ローターアクトへ

佐藤吉平さん

11/20 三条南へ 古沢富雄さん

齋藤弘文さん

渡辺勝利さん

榎本 勝さん

五十嵐総一さん

11/21 三条北へ 瀬下一三さん

高橋一夫さん

高橋政志さん

鈴木宗資さん

五十嵐昭一さん

佐野勝栄さん

会長挨拶

石橋会長

本日は南クラブより若林幸哉さん、田中康雄さん、北クラブより中条耕二さん、本間建雄美さんが、メイクアップにおいて下さいましてありがとうございました。

今日は雲一つ無い晴天の小春日和の好天に恵まれました。そのせいか平年より10日程早く、家では庭の冬囲が始まりました。約30種類、100本程の囲になるわけですが、庭師の職人さんと話しをしておりましたら、今回で丁度10年目のことと申しておりました。これからもお客様の目を和ませてくれる樹木を大切にしたいと思っております。

話は変わりますが、皆様のテーブルにお配りいたしました次年度の理事、役員の方ですが、他に立候補されたい方がおられましたら、次週11月29日までに会長、幹事にお申し出いただきたいと思っております。12月の第1例会でお計りいたしますので、よろしくお願ひします。

幹事報告

松谷幹事

◎重田ガバナー事務所より

オンツーカーガリークラブ内推進委員会のご案内がとどいております。

とき 12月9日(土)

AM11:30~

ところ 割烹 かも川別館

(長岡市柏町)

◎国際ロータリー日本サービスセンターより

より

ロータリー適用相場変更のお知らせがとどいております。

ニコニコBOX



藤田(説)さん

久しぶりに出席します。

佐野さん

小林九満太会員の卓話を楽しみにしています。

清水さん

久しぶりに人間ドックに参加いたしました。結果が後日ということでちょっと心配です。

小林(九)さん

つまらない卓話の聞かせ賃として。

外山さん

所用の為、早退させていただきます。

五十嵐(晋)さん

日曜日、上野で日展をみてきました。

洋画の部で三条の渋谷昭五郎さんの作品がありました。ランプという題名でした。あまりの人混みで疲れました。

長谷川さん

過日の19日(日曜日)に娘を嫁がせました。10日に父が亡くなり、19日娘が嫁に行き、我が家は急に女房と私と二人きりになりました。淋しくなりましたが、これからは新婚気分頑張りたいと思います。

小林(敬)さん

外孫が出来ました。

五十嵐(昭)さん

「日中友好の翼」で中国の姿をいろいろ見させていただきました。

内山(辰)さん

今日は珍しくよい天気にも恵まれましたので。

細井さん

良いお天気で気持ちのいい日になりました。久しぶりのホームクラブ出席です。

五十嵐(総)さん

久しぶりのホームクラブ出席。

関本さん

ボックスに協力して。

渋谷(秀)さん

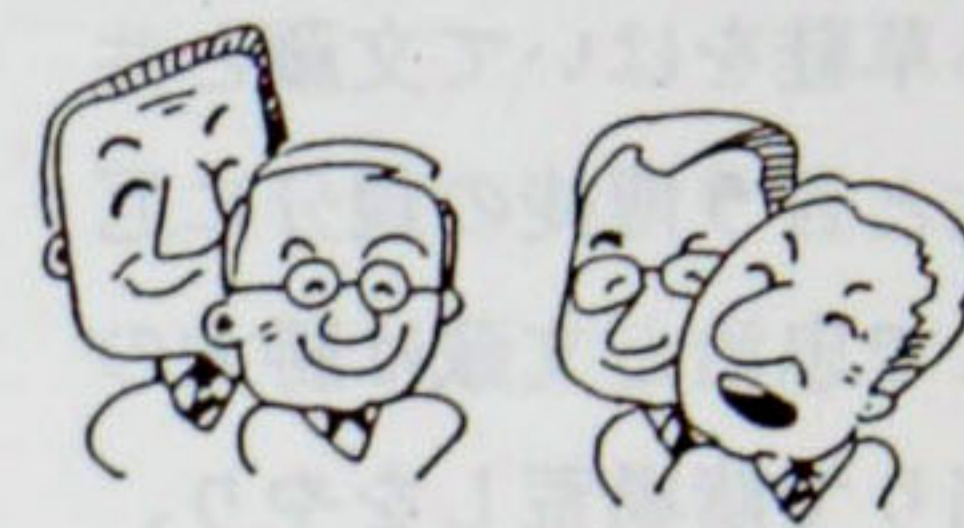
本日、雑用があり早退させていただきます。申し訳ございません。

山田さん

久しぶりのホームクラブ出席です。

船越さん

都合により早退させていただきます。



11月22日分

¥30,000

卓話 小林九満太会員

游侠の徒国定忠治



国定忠治は本名長岡忠治郎と言い、上野国佐位郡国定村に文化7年(1810年)、富裕な農家長岡与五左エ門の伴として生れた。弟を友蔵と言い2人兄弟であった。

忠治は14、15歳の頃よりぐれ始め、16歳で、同じ佐位郡の百々村の門二の乾分になった。もって生れた豪胆さと抜群の行動力、人づきあいのよさで若い乍らめきめきと頭角をあらわし、門二の一の乾分と言われるまでになり、門二が死ぬ時、縄張りを忠治に譲った。忠治21歳の時である。

天保5年、縄張り争いから、忠治は乾分の三ッ木の文蔵と共に島村の伊三郎を斬り、その場から草鞋をはいて文蔵と共に信州松本の勝太と言う博徒の親分に厄介になった。ここで忠治と文蔵は勝太の縄張り外の中野当りで賭場荒しをやり、又街道に出て追はぎもしたと言われる。しかし、こんなことがいつまでも続くわけがなく、4ヶ月で上州に戻ったが、島村の伊三郎を斬ってから間もないので国定村に帰ることは遠慮して赤城山にこもった。国定村から赤城の麓まで3里、そこから3里半道のあるような、ないようなつづら折りの道を登って8、9合目に10疊敷もある岩の洞窟がある。幸いそばに泉も湧いており、ここを住み家にして八州取締出役（八州方）のすきを見ては赤城山を降りて縄張りを見回った。斬られた島村の伊三郎の評判が悪かったせいもあるが、赤城の山からにらみをきかす忠治の評判は逆に上り、盃をもらって乾分になるものが続出したと言われる。

天保6年には矢張り縄張り争いから玉村の宗蔵、主馬の兄弟の博徒を襲っており、翌7年には乾分の兆平が信州に旅し、中野の博徒伝七になぶり殺されたのを怒って、乾分20数名を引き連れて仇討に出発した。上州から信州にゆくには大戸の関所を通らねばならない。忠治達は抜刀し、鎗の鞘を払い、鉄砲をかついで大手を振って白昼大戸の関を通った。言わずと知れた関所破りである。忠治の無法も度がすぎたというべきであろう。それまでにし

て中野に行ってみると既に伝七は上役人に捕えられ、しおしおと赤城山に戻るしかなかった。

しかし、忠治は無法のことばかりしていたのではなかった。天保7年は大凶作であり、餓死する者があとをたたなかったと言われる。そこで忠治は猛然と起った。忠治はうちにあった刀剣書画骨董は勿論、着物や膳碗皿鉢まで売り払い、又賭場のテラ銭をかきあつめて、乾分共を八方に走らせ凶作で高騰していたにも拘らず米200俵を買い集めて、困っている人達に分配した。又国定村の隣村の田部井村に磯沼という田圃の用水用の大きな溜池があるが、長年手入れをしない為、草ぼうぼうで用水の役に立たなくなって来たのを名主西野目宇右エ門と相談して、沼浚いをやった。この為、旱魃を免るもの700余名に及んだと言われる。

天保8年3月27日、忠治が島村の伊三郎から奪った世良田の賭場に八州方の手入れがあった。忠治は運よくその場をはなれており、難を逃れたが、4天王と言われた三ッ木の文蔵と八寸の八市が捕まった。2人が江戸送りとなる時、三ッ木山の峠で唐丸籠を奪い取ろうとした。これを知った護送役人は間道を通り肩すかしをしたが、これが八州方の感情をいたく害した。

忠治はその場から草鞋をはき会津にのがれ、旅にあること5年、天保13年早々に上州に戻り2度目の赤城入りをした。

その年の8月19日、田部井の賭場が目

明し、勘助の案内で八州方の吉田佐平の手入れがあり、賭場にいた忠治と一の乾分日光の円蔵は死にももの狂いで脱出、赤城の洞窟に帰ることが出来たが幹部級の乾分が大分捕えられた。勘助は忠治の乾分浅沼の実の伯父にあたる為、浅沼も来るのではないかと疑われたが、勘助の首をとることで許されている。芝居では浅沼は板割りの浅太郎となっている。

又々忠治は草鞋をはき旅に出ること4年。この間に円蔵も浅沼も捕えられ斬首の刑にあっており、乾分の主だった者達を凡て失った忠治は弧影悄然と赤城山に入った。3度目の山入りである。

年号変って嘉永3年7月21日の晩、妾のお町のところで忠治は中風になり、田部井の西野目宇右エ門宅にかくまわれたが、8月24日ご用弁となり、江戸送りの末罪科が決り12月21日、大戸の関所前で磔になった。忠治時に41歳であった。

わが家・色・いろ

五十嵐晋三会員

♣わが家について

妻、娘の3人暮らし。長男夫婦は横浜で、次男夫婦は金沢でのんびり暮らしている様です。

◆おとうさんへの要望

酔っぱらった時、訳の解らない事を言わないで。

◆一番家族を感じる時

出張から帰って来て、久しぶりに家族で食卓を囲んでいる時。



おとうさんってこんな人

♡おとうさんの好きなところ

何事にも一生懸命なところ。

家族思いのところ（月2回の出張帰りのカバンには、いつもおみやげがドッサリ!!）

♡おとうさんの嫌いなところ

段々、頑固になって来たところ。

♡一番うれしかったこと

兄妹3人、大学4年間学ばせて（遊ばせて?）もらいました。今となっては、本当に感謝しています。ありがとうございました♡

例会案内

三条RC	11月29日例会	卓話	渋谷秀幸会員
	12月6日例会	卓話	「中国人が語る中国」 周 調査役殿
	12月13日例会	卓話	渡辺勝利会員
三条南RC	12月4日例会	総会	
	12月11日例会	卓話	野島廣一郎会員
	12月18日例会	忘年家族会	PM 6:30~ 於 おゝの
三条北RC	12月5日例会	総会	
	12月12日例会	外部卓話	
	12月19日例会	ファミリークリスマスパーティー	於 おゝの